

天草の石橋めぐり

せむい 施無畏橋



熊本県指定文化財

山口の施無畏橋 附架橋碑

指定年月日 平成18年5月29日
管理者 天草市・無畏庵

施無畏橋は、染岳登山口にある曹洞宗の無畏庵の参道として明治15年(1882)に架けられた眼鏡橋で、下浦石を使用している。口伝では、明治4年(1871)に第一回目の眼鏡橋が出来上がったが、その後崩れ落ち、再建したものが現在の施無畏橋と言われている。

橋は単一アーチで、橋長22.73m、橋幅3.24m、径間12.14m、挟矢3.03m。橋には高欄が設けられ撥型の束石に手摺石を載せている。全体的に壁石が薄く、特にアーチ中央部は、輪石のみで構成されているという特徴があり、昭和50年に市指定、平成18年に県の重要文化財に指定されている。

また、無畏庵の門柱として残されている架橋碑からは、建造年号、世話役、石工、寄付者の名前などを読み取る事ができる。天草の石橋では架橋碑が現存している橋が極めて少ないことから、架橋碑が現存し、その碑文から多くの情報が得られるという点においても施無畏橋は貴重な石橋である。

平成20年3月

天草市教育委員会

楠浦の眼鏡橋



所在地 天草市楠浦町
架橋 明治11年（1878）
長さ 17.6m 橋幅 3.7m

熊本県指定文化財

楠浦の眼鏡橋

指定年月日 平成十八年五月二十九日

楠浦の眼鏡橋は、楠浦と宮地（現在の新和町）とを結ぶために方原川に架けられた石橋である。架橋に尽力したのは第一三代楠浦村庄屋宗像堅固で、明治十一（1878）年に完成した。石材は下浦石という、地元天草の加工しやすい砂岩で、石工は下浦の松次、打田の紋次、足場組梓大工は楠浦の和田茂七である。楠浦の眼鏡橋は、橋全体が緩やかなアーチをえがいており、ほかの石橋に比べて壁石が薄く、特にアーチ中央部は壁石がなく輪石のみという点が特徴的である。その姿は優美だが大変堅牢な橋である。また周囲の田園風景とよく調和し、特に楠浦諏訪神社秋季例大祭に神幸行列が橋を渡る様子は壮観である。

天草市教育委員会・天草市楠浦地区振興会

市ノ瀬橋



所在地 天草市本町下河内

河 川 広瀬川

特 徴 架橋当時の姿で、自動車が通る現役橋

天草市指定文化財

市ノ瀬橋と石碑

指定年月日 昭和59年1月9日

管理者 天草市

この石橋は太鼓型めがね橋で、橋長^{22.2}m、橋幅^{4.6}mある。明治15年4月最初の橋が架けられたが明治19年7月洪水により倒壊、その後の再建年代は不詳。地元長老の話では富岡線の県道とともに完成したというこゝとであり、明治23く4年頃と思われる。石碑の表には何も刻まれていないが裏には世話人たる佐藤信邦外、石工、大工等の指名が刻まれている。

天草市教育委員会

とどろき
轟 橋



所在地 天草市河浦町今田

河 川 今田川

特 徴 石橋の上に、コンクリートで補強しているので、上からは石橋と分らない。しかし、下に降りると峡谷の中に美しいアーチ橋がマッチしている。

天草市指定文化財

轟橋

指定年月日 昭和56年1月20日

所有者 熊本県

轟橋は大正三年三月に一町田く福連木間の県道工事によって建設された。下浦石と呼ばれる砂岩を用いたアーチ式石橋で、橋長は12.5m、スパンは9.25mである。

昭和四十三年の県道改修に伴い、幅員拡張、補強を目的として下流側に鉄筋橋が増設され現在の姿となったが、今田川と一体となった石橋の景観は天草屈指の美しさである。

平成21年3月

天草市教育委員会

芦刈橋



所在地 天草市河浦町

河 川 今田川

架橋年 大正三（1914）年 轟橋と同時期

サイズ 橋長 16.6m 橋幅 4.9m

特 徴 芦刈橋は、轟橋の上流約1kmのところにある。

県道35号線から宮地岳へ至る291号線の交差点の所。ただし、石橋の上はコンクリート橋で拡幅補強されているため、目立たない。標柱もない。

志安橋



所在地 天草市亀場町食場

河 川 宇土川（亀川の支流）

特 徴 大きな橋でもなく、国道から離れたところにあるので、目立たないが、里道橋として、現在でも立派に住民の役にたっている。

天草市指定文化財

志安橋

指定年月日 平成5年3月22日

志安橋は、亀場から杵宇土への往還道で亀川の支流「宇土川」に架かる石橋である。橋の形式は、緩やかなアーチを描く太鼓型の眼鏡橋で、長さ8.8m、径間7.1m、幅3mであり、天草に残る石橋の中では小規模ながら、痛みも少なく、保存状態はよい。石材は砂岩であり、地元天草の石を使ったものと思われる。

架橋の発起人等は不明だが、架橋年代は「明治十五年暮秋」、石工は「大塚光治、横山為吉、大塚芳太郎、同要太郎、同孫市」という事がわかる。

平成23年1月 天草市教育委員会

無量寺参道橋



所在地 天草市久玉町

河 川 久玉川（吉辺川）

サイズ 橋長 10.4m 橋幅 2.8m

特 徴 案内板には、架橋年が享保年間とあるが、当時の橋は木造だったと思える。当時はまだ石橋の技術はなかったと思えるからだ。ちなみに『石橋は生きている』山口祐造著には、架橋年代を幕末頃（1862年前後）としている。橋の新しさからいってもこちらが妥当だろう。

天草市指定文化財

眼鏡橋

指定年月日 昭和50年6月10日
所有者 天草市

天草・島原の乱（1637年）の後、天草の民心の安定のため建立された浄土宗無量寺の山門につながる参道の吉辺川に架かる石橋で、昔から「寺橋」、「欄干橋」呼ばれている。建立者は不明であるが、建立時期は享保年間（一七一六〜三五）と推定される。橋には宝珠がついているが、これは格式ある寺院にのみ許されたものである。

平成21年3月 天草市教育委員会

平尾橋



所在地 天草市楠浦町方原

河川 方原川

サイズ 橋長 11.1m 橋幅 4.3m

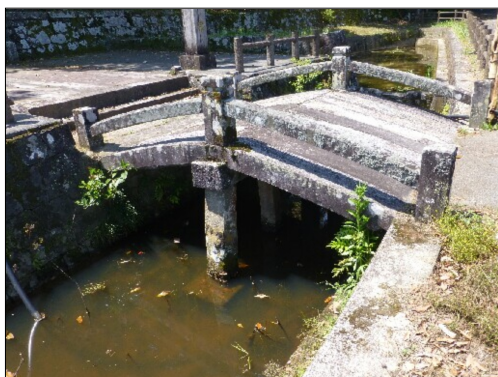
架橋年 明治43 (1910) 年

特徴

平尾橋も、上部がコンクリートで拡幅・補強してあるので、意識していないと、通り過ぎる。

標識もない。

石橋の多くが楕円だが、この橋は正円に近い。



金性寺の石橋

上天草市松島町教良木

架橋年月 不明

長さ 3.8m

幅 3m



国照寺の石橋

苓北町志岐

架橋年月 不明

長さ 5m

幅 3.6m



馬場の石橋

天草市五和町御領馬場

架橋年月 江戸時代中期（推定）

長さ 4m

幅 2.7m

高さ 2.1m

径間 3.2m



はすかわ

蓮河橋

天草市戸宇土町

架橋年月 明治34（1901）年頃

長さ 15m

幅 7m

小さいが私も立派な石橋

